

第3回「千年未来塾」 概要

1. 趣旨

第1回では、人口減少や少子高齢化などの地域課題を踏まえ、千年先を見据えて、宇陀の未来を考える対話の場として千年未来塾が始動し、第2回では、宇陀で挑戦が生まれ、続いていくための条件について議論を深め、その過程で市民から運営への参画を希望する声も出た。

第3回では、「市民が育てる千年未来塾」をテーマに、千年未来塾をどのような場として育てていくかについて考えた。また、藤田浩之氏のネットワークを通じて、宇陀にお招きする世界で活躍するさまざまな分野のゲストに、どのようなイベントを開催してもらうか、その機会をどのように学びや地域での実践につなげていくかを議論した。千年未来塾は、行政や特定の個人が運営するのではなく、市民一人一人が主体的に関わり、対話から実践へとつなげる場として発展させていく。

2. 開催概要

日時：令和8年4月5日（日）13:00～15:30

会場：榛原総合センター 3階大ホール

参加者：市民、中高生、事業者、行政関係者、市議会議員等

主な登壇者：

藤田 浩之 氏（医療・教育分野）

金剛 一智 （宇陀市長）

甲賀 晶子 氏（奈良県職員）



3. 第1回、第2回の振り返り

冒頭に第1回、第2回千年未来塾の振り返りを行い、次の考え方について共有された。

- ・正解を探してから動くのではなく、動きながら考える。
- ・完璧を待たず、小さく始めることが重要である。
- ・どういう問題があるのか、問題を定義するところから始める。
- ・多様な人が交わる場をつくる。
- ・一番の失敗は何も挑戦しないことである。

また、藤田氏からは、

- ・地方創生の鍵は、人と人の関係性から生まれる「化学反応」である
- ・正解がない中で、自ら考え、行動し、修正しながら進めていく姿勢が重要であると示された。

4. ゲストの招待について

今後、国内外からさまざまな分野の専門家・事業家の方を宇陀市にお招きする予定である。

その目的は、宇陀にしながら各分野・業界の第一線で活躍する方々と交流できる環境の創出、若い世代への知的刺激の提供などである。

ゲストは、完全なボランティアで来ていただく予定であり、各ゲストについて、行政職員のみならず、市民も交えたチームを編成して、宇陀でどのような講演・イベントを開催するのかを企画していく。

（※お招きする予定のゲスト一覧は、HP に別途掲載している資料を参照のこと）

藤田氏からは、各ゲストについての補足説明があり、どのような思いでそれぞれの仕事をしているのかなどについて、ご説明をいただいた。

5. グループワーク

ゲストの紹介・補足説明の終了後、各参加者はイベントを企画してみたいゲストを1名選び、グループに分かれて、どのようなイベントを開催するのがよいかを話し合った。

話し合いでは、単発のイベントではなく継続的な取り組みにつなげるにはどうすればよいか、市民参加型・体験型のプログラムとしてどういったことができるか、地域資源を活用する方法などを重視して議論していた。

また、宇陀の持つ資源や魅力などの地域の強みを整理し、外部に向けて発信していくことの重要性が再確認された。



6. 今後の進め方

第3回は、単なる議論の深化にとどまらず、参加者間で具体的なアイデアが生まれ、「市民による主体的な」千年未来塾への転換が実際に動き出した回となった。

今後は、

- ・各ゲストの具体的なイベント内容・プログラムの設計と実施
- ・継続的な対話と実践を通じた取り組みの深化
- ・地域内の人材や資源を活用した取り組みの拡大

また、今後の千年未来塾は、ゲストによる単発のイベントにとどめることなく、対話と実践を繰り返しながら地域の方向性をかたちづくる場として展開していく。藤田氏からは、今やっている取り組みが「市民によるエコシステムづくり」であり、さまざまな人々が意見交換を行うことで「化学反応」が起きることに期待しているとの評価をいただいた。

